

ようやく、朝晩涼しくなりました。喉元過ぎれば・・・と言うように、寒くなれば 暖かさが恋しくなる朝晩となりました。涼しくなると、季節の味わい 食べ物など、つまり 秋を満喫できる気分が高まります。

子どもたちのまず最初の秋の訪れは、なんと言っても栗拾い 栗の生食べ。都会出身の方はほぼ驚きますが、生栗の皮と渋を剥いて、綺麗な黄色の生栗をカリッと食べるあのおいしさは格別です。それも、山栗が最高に美味しい。先日、保育相談員たる大人が大地にいらして、子どもたちの保育の様子を聞いているとき、ちょうど、子どもたちがリュックを背負い、散歩に出発する時、栗の木の下で栗を拾い食べている姿を見て、「あれは何をしているのですか？ 何かのプログラムですか？」と聞かれ 思わず絶句しましたが、「ご覧の通り 栗を拾って食べています、特に 保育目的ではなく、日常の暮らしです」と答えました。かなり、戸惑っておられましたか！？

ひまわりの種食べ かかし作り 稲刈り 枝豆 などなど秋が目白押し。好天に恵まれた稲刈りは、全員で広い田んぼに出かけ、ゆっくりと秋の稲刈りを楽しみました。コシヒカリと餅米の二種類を今年は、育てたので、両方今年は味わえます。ありがたいことに、子どもたちの田んぼは、ヒエにほとんどやられていないので、面積の割に、豊作が期待できそうです。

皆さんにご協力頂いた子どもたちの給食にも使う田んぼは、5 年目の無農薬の壁で、収量は、昨年の 3 割減となり、ショックの秋となりました。これをきっかけに勉強して、奇跡のリンゴで有名な 木村式の米作りをスタートする予定です。来年は 五穀豊穡を目指して、子どもたちと米作りをがんばりたいと思っています。

二期からは、新たに可愛い子どもたちも入園してくれて賑やかになりました。11 月からも、更に新たな子どもたちも入園する予定です。活気あふれる子どもたちの世界が一段と広がっていく予定です。秋の実りと同じように、子どもたちの世界も、更に成熟していくことを願います。

大地にも 30 周年に向けて 続々と 30 歳前後の卒業生達の出席の便りが舞い込んでいます。嬉しい限りです。



【大人のおはなし会】

先日のおはなし会。久しぶりに鳥肌が立つほどの精神的な高揚と感動を伴った言い知れぬ味わいの世界でした。本当の求める豊かさとは、こんな世界なのかと、美しい文庫からの窓辺の景色を見ながら心から幸せだと思いました。素晴らしい時間でした。それは その時だけではなく、それに至るまでの過程 凄まじい真摯な努力の積み重ね、があったからだ。「本当に楽しいことは、決して楽なことではない」まさに感動の裏に潜むひたむきな努力だと思います。

ファージョンと言えば 「ボタンインコ」・・・ おはなしを学んでいると、必ず ファージョンという声が入ります。アレルギー的に、どうしても 高嶺の花、近寄りやすい ステータスのあるおはなし 超えがたい壁 という印象で、かなりの実力が無ければ気軽に語れない、そして 難しいというイメージがありました。

父親おはなし勉強会で、ファージョンの話題が出て、会長の赤木さんが、「貧しい島の奇跡」(たぶん 40 分近いおはなし)に挑戦するという話があったのが 9 月初旬。そして、そのおはなしの朗読を聞いて、その内容に感動して、ファージョンの素晴らしいさに目覚めました。

更に、この一ヶ月で、これだけのおはなしをどう覚えてくるのだろうか でも、たぶんやり遂げてくるだろうと夫婦で話していたところ、ノントン母さんもこの努力と挑戦に大きな刺激をもらい、新しいおはなしに挑戦した次第です。青ちゃんも、大概な事は、思いついたらすぐに実行して成し遂げる思いはありますが、おはなしは(音楽などもそうですが)一夜では仕上げられません。気の早い青ちゃんでも徹夜してもできません。日々 階段を半歩のみではなく、四分の一ずつ位しか昇れません。行きつ戻りつしながらようやくたどりつくのがおはなしです。

何十年もやっている妻でさえ、今回の新しいおはなしを覚える姿を見ていると、朝に晩に ふっとどこかに消えて覚えていたり、長いお風呂でやっていたりしていました。それだけに 赤木さんのファージョンの長さときたら凄いものだけに、その努力の過程はすさまじいものだと思えました。それを思うだけで、こちらも緊張感が溢れました。

真摯に取り組む 緊張感溢れる凄まじい努力 必死に取り組む 時間を惜しんで大切に真剣に向かい合う 歯を食いしばってひたむきに一人努力する 他人を気にせずに自分の道を進む、後悔せずに思いついたら全力で向かう・・・こんな生き方が大好きです。そして、そんな生き方をしている人が大好きですし、心から応援したくなります。良いか悪いかわかりませんが 自分に厳しく他人にも厳しい自分がいます。そんな世界で日々生きていくのが好きです。

自律と自立。子どもたちの教育、特に 幼児教育では 基本的生活習慣が自立できるように(トイレ 食事 着替え などなど)と、これらを大きな目標としている面があります。それでも、これらの事は、年を重ねるとともに、早かれ遅かれ、どうにかなっていくものです。早くから、厳しくやる必要もないと思います。バランス割合の問題ですが、それよりも大事な事は、自律すなわち自分を律する力 セルフコントロール能力だと思います。我慢する 耐える 時間を守る 時間を大切に 目標を決めてどのようにしていくのか 日常をどう過ごすのか・・・ 特に、幼児では、自分の思い通りにならない時の我慢 耐える事に始まり、逆に、自分の大好きなことをとことんやりながらも、暮らしのなすべきことへの秩序や守るべき事 などもしっかり伝えていくことが 自立以上に必要だと思います。自律の力があれば、24 時間 365 日という誰にでも平等に与えられている時間をやりくりしながら、充実した世界暮らしを味わえる事ができていると思います。人生一度きり、せっかくだから人類にある未知の世界を一つでも多く味わい、体験していくには、自律能力が大きな力だと思っています。

話はそれでしたが、妻や赤木さんの努力を垣間見ながら、自分の約 12 年前の東京子ども図書館のおはなし研修時代を思い出し、初心に帰る事ができました。そして、自分たちもひたむきにおはなしと向かい合い、大きなこれからの刺激になった事への感謝と赤木さんへのエールを込めて、普段、細川さんや藤本さんや大御所のゲストの時でしか演じない舞台を作ろうと思いました。同時に、素晴らしい最高のアイルランドの音楽をして下さる人達の舞台も兼ねて。

自己満足の世界ですが、そんな多くの人達のエネルギーと思いと努力とが結集できて、最高のおはなし会が行われたと思っています。事前に、文庫の窓をいつもとは違う拭き方で行いました。透き通るような透明な窓になっていました。おはなしを聞きながら、透き通る完全透明なガラス窓の向こうに見える緑の景色を見ながら、自分の心が透明感に溢れていくのを実感しました。皆のひたむきな努力の結晶が、水晶のような輝きと光を放っているのだと実感しました。

「何でも楽しんでやろう」という、時には薄っぺらなふうを感じる言葉が巷には流行っています。否定はしませんが、どうせやるなら、深い楽しみを求めて、ひたすら地道にじっと緊張感を持って努力していこうという思いをかけていきたいと思っています。自律は、夢 いや 目標への、最高の道具です。